

令和5年度第2回宇部市環境審議会議事録

日時：令和6年1月31日(水) 13時30分～15時30分

場所：宇部市総合福祉会館4階 大ホール

1 報告事項（事務局報告、事前協議報告、環境事故等報告）

- (1) 令和5年度刊「宇部市の環境」について
- (2) 分離膜工場第4期設備増設に伴う環境汚染の未然防止対策について
- (3) 鋼滓スラグ破砕加工設備の火災事故について
- (4) ハイドロケーキ含有白濁水の公共水域への流出事故について

2 出席者（順不同、敬称略）

<委員>

市 民：加藤泰生

学識経験者：奥田昌之、小林剛士、山本浩一、三上真人、福代和宏、細井栄嗣、
藤田活秀、吹上静恵

企業代表者：森野譲

民間団体：竹重真由美、木原裕子

<宇部市>

市民環境部：黒瀬部長、村岡次長

環境政策課：神代課長、西岡副課長、大村係長、岡係長、係員2名

廃棄物対策課：中村課長

環境保全センター施設課：正木課長

3 議事概要

<事務局>

宇部市環境審議会条例第5条第3項の規定により、本日の会議が成立していること
の確認（開会時委員数16名に対し過半数の11名参加）。

配布資料の確認。

<会長あいさつ>

先月UBE株式会社ケミカル工場を見学する研修会を実施した。今後とも工場の実態を
知る機会を増やし審議会の審議に役立てたいと思う。

本日、各委員におかれては、年度末の多忙な折に参加していただいたことに感謝を申
し上げる。各議題に対し忌憚のない意見をお聞かせ願いたい。

令和5年度刊「宇部市の環境」について

<事務局>

冊子 令和5年度刊「宇部市の環境」に基づき説明

<奥田委員>

地球温暖化対策について、企業の設備増設により CO₂ 排出量が増加することがある。設備増設による CO₂ 排出量増加をどこまで許容するか、また、どう捉えているか。

<事務局>

環境保全協定を締結している企業とは、協定書に CO₂ 排出量削減目標を記載しており、その目標値を目指しているため、企業活動全体で目標達成されることが重要と考えている。

<奥田委員>

「宇部市の環境」の中には企業別の協定値といった基本的な資料が掲載されず、全体の大きな数字だけが掲載されており、CO₂ 排出量削減の進捗状況が適切かなどを判断しきれない。

<事務局>

分かりやすい資料として提供できるものがあれば掲載を検討したい。

<森野委員>

協定書には CO₂ 排出量削減についてどう記載してあるか。

<事務局>

目標年度までに 25%削減を目標とすると記載している。

<福代会長>

市が CO₂ 排出量削減をコントロールすることは難しいと思う。企業として目標を掲げているので、一時的に排出量が増えることがあっても、長期的には減少していくと思われる。

<山本委員>

生物多様性の保全について、環境省において「30by30 目標の設定」や「自然共生サイトの認定」といった取り組みがあるが、宇部市として関連した取組はあるか。

<事務局>

里山ビオトープ二俣瀬の活用や小中学校における環境学習による人材育成などに取り組んでいるが、環境省施策に直接関連した具体的な取組はない。

<加藤委員>

大気環境の保全について、降下ばいじん量の目標値が 13 年間変わっていない。下げない理由があるか。

同じく、工場施設における臭気指数の協定値超過の原因は何か。

騒音・振動の防止について、国道 2 号の騒音要請限度超過は、平均数値としての超過か、瞬間的な超過か。

<事務局>

降下ばいじん量は毎年下がっている。ただ、観測数値は台風、雪、黄砂などの影響を受けており、企業からの排出だけが観測されている訳ではない。

臭気指数の協定値超過は、熱交換器に損傷が生じガスが漏れたことによるものである。

国道 2 号の騒音計測値については、24 時間計測を行っており、平均値である。超過原因については大型車の走行割合が大きいことからと思われる。

<加藤委員>

国道 2 号の騒音対策については国に要望できるのではないかと。改善の道筋をたてる必要があると思われる。

<福代会長>

市が対策できるかどうかは難しいところがあるだろうが、調査結果をフィードバックできる仕組みがないと改善に繋がらない。

<事務局>

国道 2 号の騒音計測値については環境省及び国土交通省に報告している。

分離膜工場第 4 期設備増設に伴う環境汚染の未然防止対策について

<UBE 株式会社>

資料 1 に基づき説明

<奥田委員>

全市を挙げて排出量削減に取り組む中で、設備増設に伴い温室効果ガスの排出量が増加するとあるが何らかの対策を取られているか。

<UBE 株式会社>

設備増設によって排出量は増加するが、これは施設の消費する電力に由来するものであり、当該電力は社内発電所から供給されている。現在社内発電所で発電する電力は全量社内で消費しておらず、余剰分は売電しており、増設設備への供給電力は売電量を減らすことで確保することになっている。

したがって、社全体として排出量は変わらない。

<奥田委員>

削減されるのではなく、変わらないということか。

<UBE株式会社>

本件についてはそうであるが、社全体として事業の再構築や化石燃料からの切り替え等により、将来の削減に向け取り組んでいる。

<奥田委員>

削減に係る協定値達成の進捗状況はどうか。

<事務局>

令和4年度を初年度とし削減目標を定めているが、単年度目標値はなく、10年後の達成を目指しているため現在の進捗状況はお示しできない。

<奥田委員>

企業として削減の取組をしっかりと広報していただきたい。

<竹重委員>

設備増設に伴う排水量の増加について説明願いたい。

夜間騒音が協定値ギリギリと思うが問題ないか。

<UBE株式会社>

工業用水は、まず工場内のプールに大量に貯水し、その中から必要な水量を設備で利用・排水し、利用しなかった水（余剰工水）はそのまま排水している。つまり、利用した水と余剰工水の排水量の合計が工場の排水量となる。

今回の設備増設ではこれまで余剰工水であった水を新設備に利用することになるため、利用した水の排出量と余剰工水の排出量の割合が変わるだけで、総排水量はほとんど変わらないと御理解いただきたい。

騒音については協定値を下回っており、大丈夫と考えている。稼働後も自主測定による監視を行うなど協定値遵守の取組を行う。

鋼滓スラグ破碎加工設備の火災事故について

<株式会社宇部スチール>

資料2に基づき説明

<小林委員>

装置停止時に警報が鳴らなかった原因と対応は。

<株式会社宇部スチール>

警報は設備の故障の際に発せられるものである。制御盤の延焼により警報がならなかったと考えている。

<福代会長>

新設備は電動化されるということだが、火災原因とみなされているケーブルの劣化への対応を密に行っていただきたい。

ハイドロケーキ含有白濁水の公共水域への流出事故について

<宇部マテリアルズ株式会社>

資料3に基づき説明

<福代会長>

白濁水は道路側溝を伝い流出したのか。

<宇部マテリアルズ株式会社>

側溝から道路にあふれ流出した。

<加藤委員>

ハイドロケーキについてよく分からないが、施設の端に置いてあるものなのか。

<宇部マテリアルズ株式会社>

海水を石灰と反応させ酸化マグネシウムを取り出し、更に残ったものを絞って粒剤を作るが、絞った残りがスラリー（ハイドロケーキ）。

<加藤委員>

廃棄物であれば、端に置くのはいかななものか。

<福代会長>

粉じんとして吸い込めば人体に悪影響があるかもしれないが、積んでいる間はあまり問題にならないのではないだろうか。

<吹上委員>

当日大雨が降っていたということだが、雨が降る中で流出が止まったのか。

<宇部マテリアルズ株式会社>

雨が降っている最中に土嚢を積み、その後雨が弱まり流出が止まった。

事務局より

<黒瀬部長>

委員各位におかれては、年度末が近づく御多忙の中、審議をいただきことに御礼を申し上げます。いただいた意見を踏まえ、本市の取組に反映させていただきたい。

また、先月 20 日に初めての試みとして開催した、工場での研修会については、多くの参加をいただき、充実した研修会となった。委員各位の熱意と、協力をいただいたUBE株式会社に対し、感謝を申し上げます。

委員各位におかれては、今後とも御指導の程お願い申し上げます。